

## H27「三重県の食に関する取組について」e-モニターアンケート実施報告書

### アンケート概要

- 1 実施期間 平成27年10月27日（火）から11月10日（火）まで
- 2 対象者数 1,214人
- 3 回答数 784人
- 4 回答率 64.6%
- 5 回答者属性

### 【性別】

	男性	女性
回答者数	408人	376人
構成比	52.0%	48.0%

### 【年齢階層別】

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
回答者数	69人	157人	186人	168人	164人	40人
構成比	8.8%	20.0%	23.7%	21.5%	20.9%	5.1%

### 【地域別】

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答者数	381人	210人	106人	62人	25人
構成比	48.6%	26.8%	13.5%	7.9%	3.2%

北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

中南勢：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町

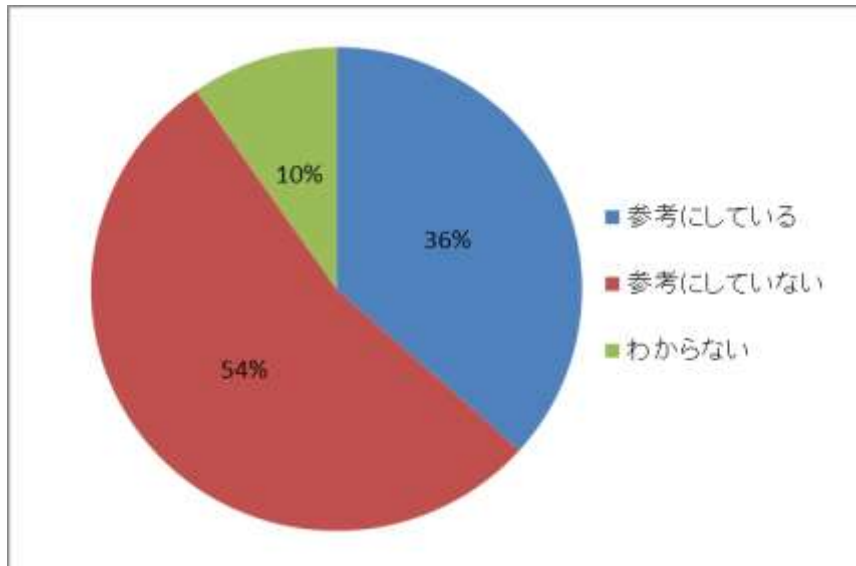
伊賀：名張市、伊賀市

東紀州：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

## アンケート結果

### Q1 食生活の指針について

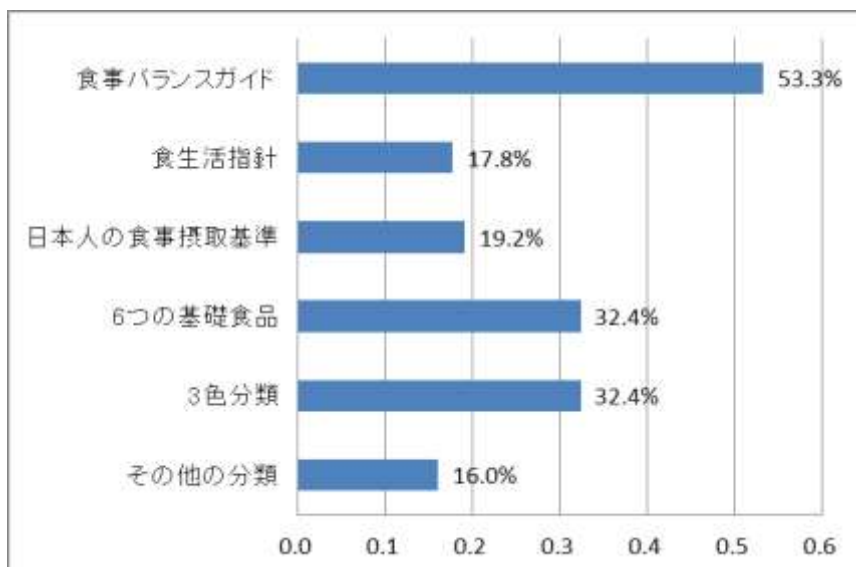
健全な食生活を実践するために、普段から食生活上の何らかの指針等を参考にしていますか。  
あてはまるものを1つ選んでください。



「参考になっている」と回答された方が287人（36.6%）、「参考にしていない」と回答された方が421人（53.7%）でした。

### Q2 参考になっている指針について

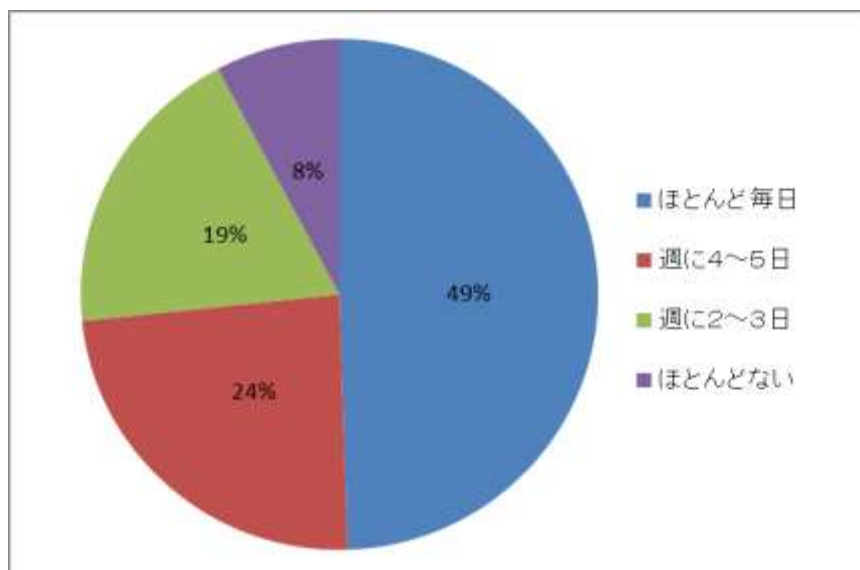
Q1で「参考になっている」と答えた方にお聞きします。  
どのような指針等を参考にしていますか。  
3つまで選んでください。



「食事バランスガイド」を選択された方が153人（53.3%）で、「6つの基礎食品」「3色分類」を選択された方が、それぞれ93人（32.4%）でした。

### Q3 バランスよく食べることについて

主食（ごはん、パン、麺類などの料理）、主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理）、副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）の3つを組み合わせる食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。あてはまるものを1つ選んでください。



「ほとんど毎日」と回答された方が、388人（49.5%）とほぼ半数でした。

### Q4 家族との食事について

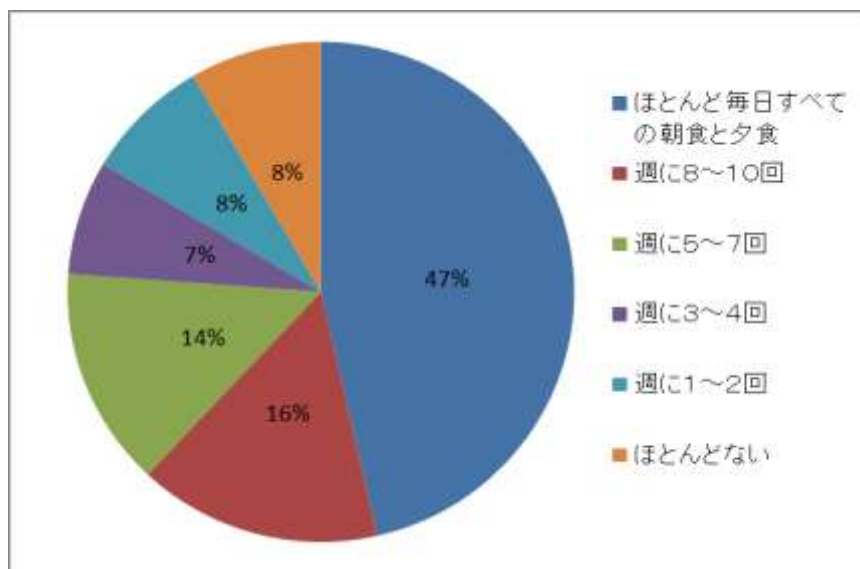
同居家族がいらっしゃる方にお聞きします。

家族と一緒に食事をする機会はどの程度ありますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

※家族数は問いません。

※朝食および夕食の場合でお答えください。（1週間で総数14回になります。）

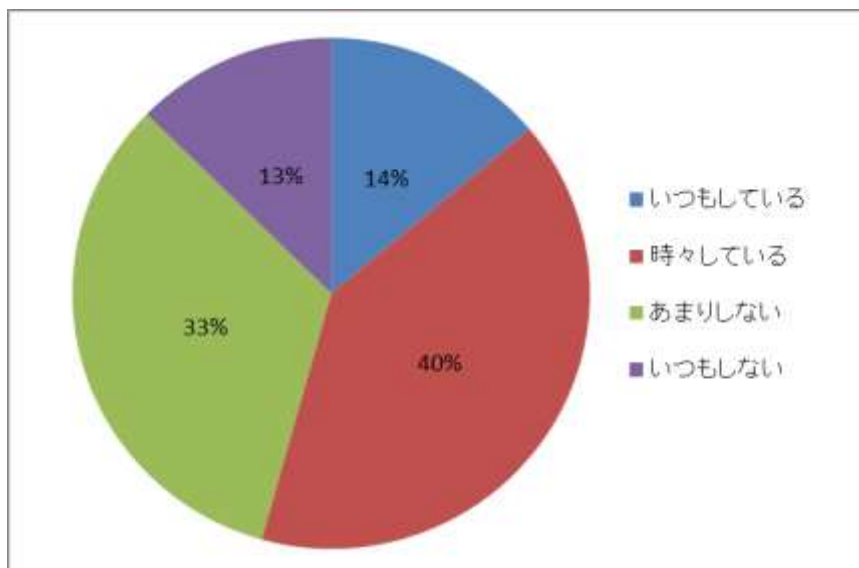


「ほとんど毎日すべての朝食と夕食」と回答された方が364人（46.4%）でした。

#### Q5 栄養成分表示について

普段食品を購入する時に、栄養成分の表示を参考にしていますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

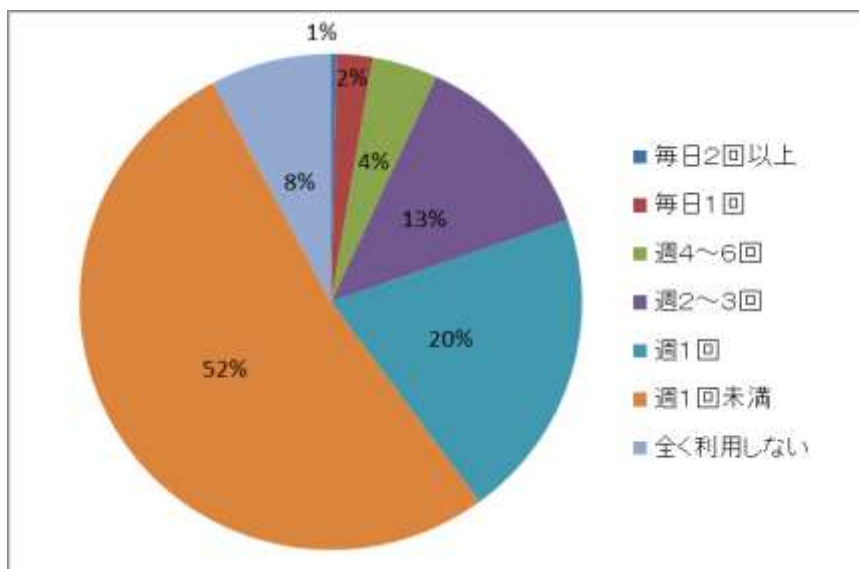


「いつもしている」と回答した方が109人（13.9%）でした。「時々している」と回答した人317人（40.4%）を合わせると半数以上の方が参考にしていました。

#### Q6 外食の利用について

外食（飲食店での食事）をどのくらい利用していますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

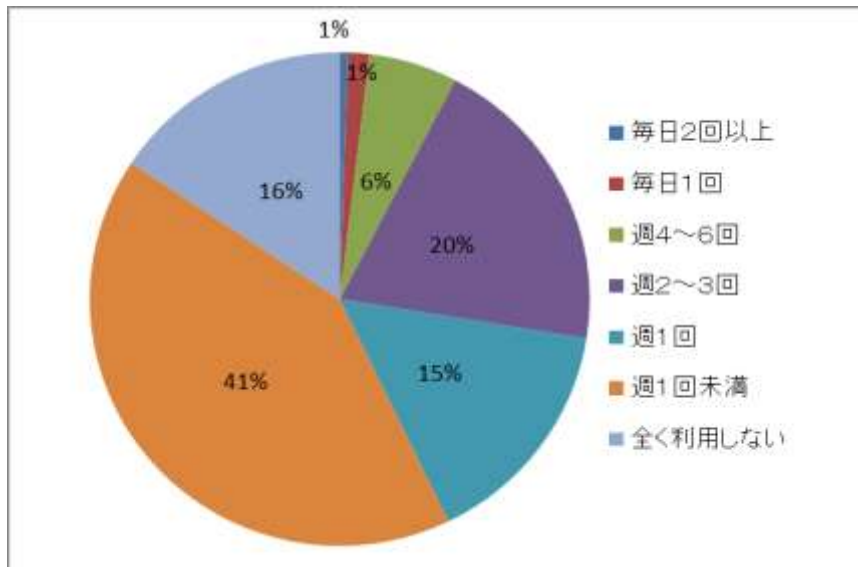


「週1回未満」と回答された方が410人（52.3%）でした。「週2~3回」以上と回答された方は154人（19.6%）でした。

### Q7 持ち帰り弁当や惣菜の利用について

持ち帰り弁当や惣菜をどのくらい利用していますか。

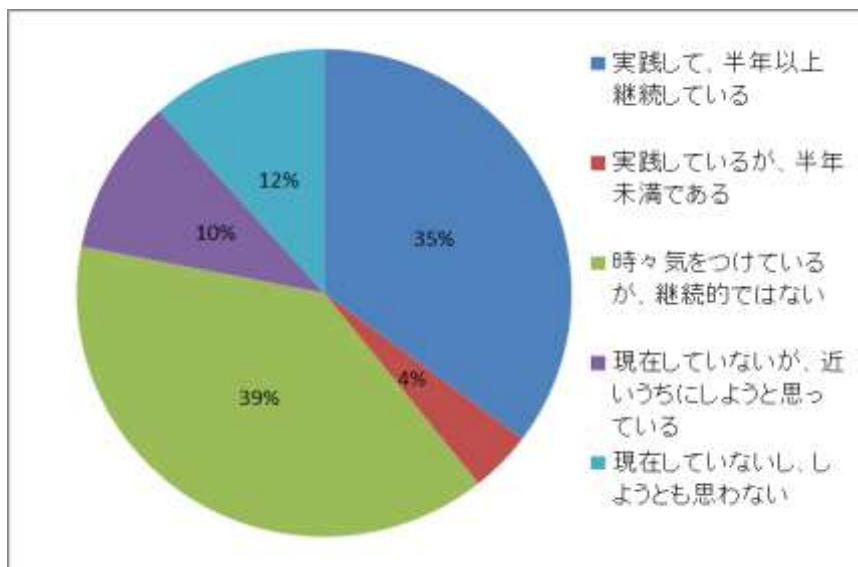
あてはまるものを1つ選んでください。



「週1回未満」と回答された方が325人（41.5%）でした。「週2~3回」以上と回答された方が216人（27.6%）と4人に1人が持ち帰り弁当や惣菜を利用していました。

### Q8 メタボリックシンドロームについて

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防や改善のために、「適切な食事」「定期的な運動」「週に複数回の体重測定」いずれかを実践していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

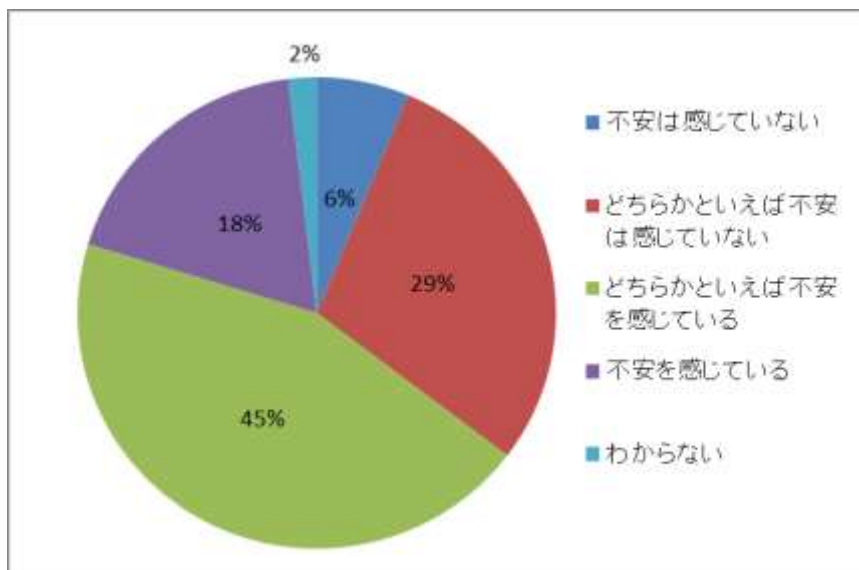


「実践して、半年以上継続している」と回答された方が276人（35.2%）、「実践しているが、半年未満である」と回答された方を合わせると308人（39.3%）と約3人に1人が実践されていました。

### Q9 食品の安全性について

あなたは、食品の安全性について、普段どう感じていますか。

あてはまるものを1つ選んでください。



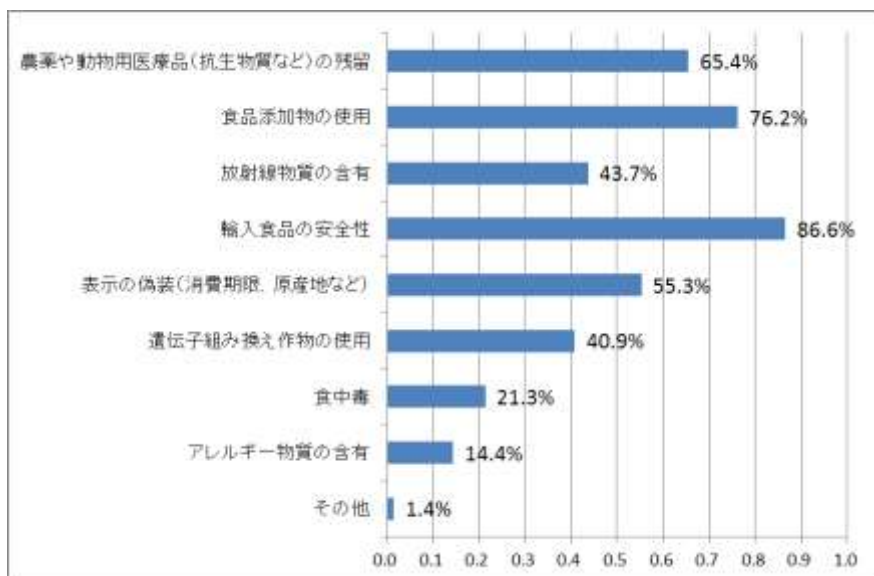
食品の安全性について、「不安は感じていない」「どちらかといえば不安は感じていない」と回答された方が277人（35.3%）、「どちらかといえば不安を感じている」「不安を感じている」と回答された方が492人（62.8%）でした。

### Q10 不安を感じる理由について

Q9で「どちらかといえば不安を感じている」「不安を感じている」とお答えの方にお聞きします。

あなたは、食品の安全性について、どのような不安を感じていますか。

あてはまるものをすべて選んでください。



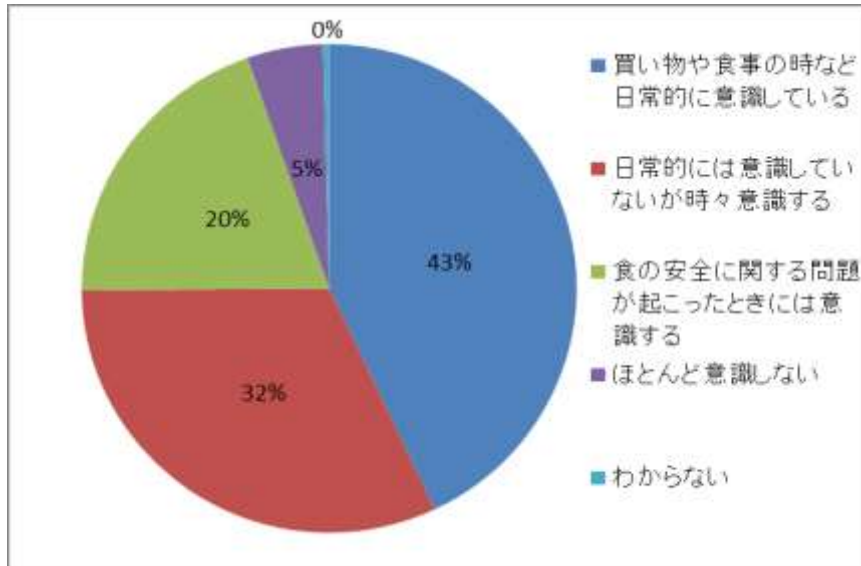
Q9で「どちらかといえば不安を感じている」「不安を感じている」と回答された方が492人（62.8%）で、どのような不安かについては、「輸入食品の安全性」と回答された方が426人（86.6%）、「食品添加物の使用」と回答された方が375人（76.2%）「農薬や動物性医薬品（抗生物質など）」と回答された方が322人（65.4%）でした。

「その他」の回答では、「異物混入（虫等）」「適切な安全管理」「超低価格商品への疑問」「発がん性」などがありました。

#### Q11 食の安全に関する意識について

あなたは、どのような時に食の安全について意識しますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

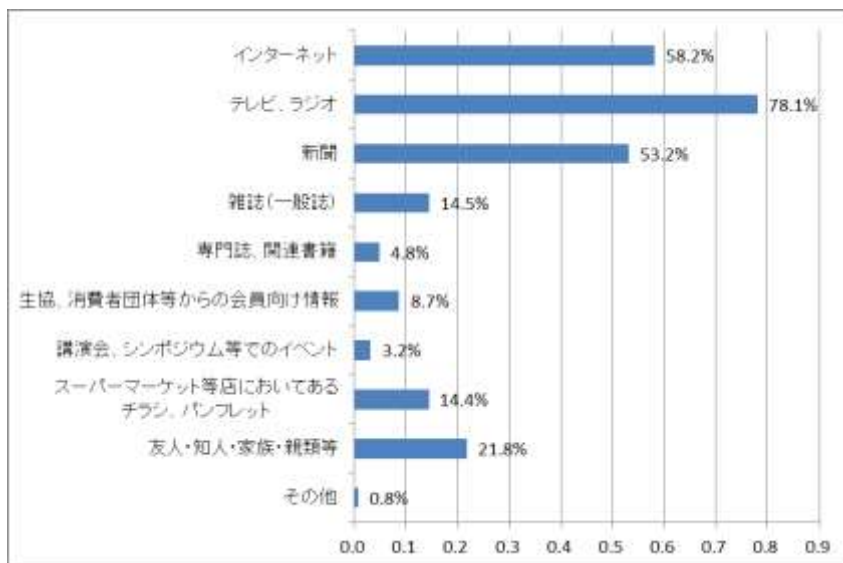


食の安全に関する意識について、「買い物や食事の時など日常的に意識している」と回答された方が337人（43.0%）でした。

#### Q12 食の安全・安心に関する情報を得る手段について

あなたは、食の安全・安心に関する情報を、どのような方法で得ていますか。

あてはまるものをすべて選んで下さい。

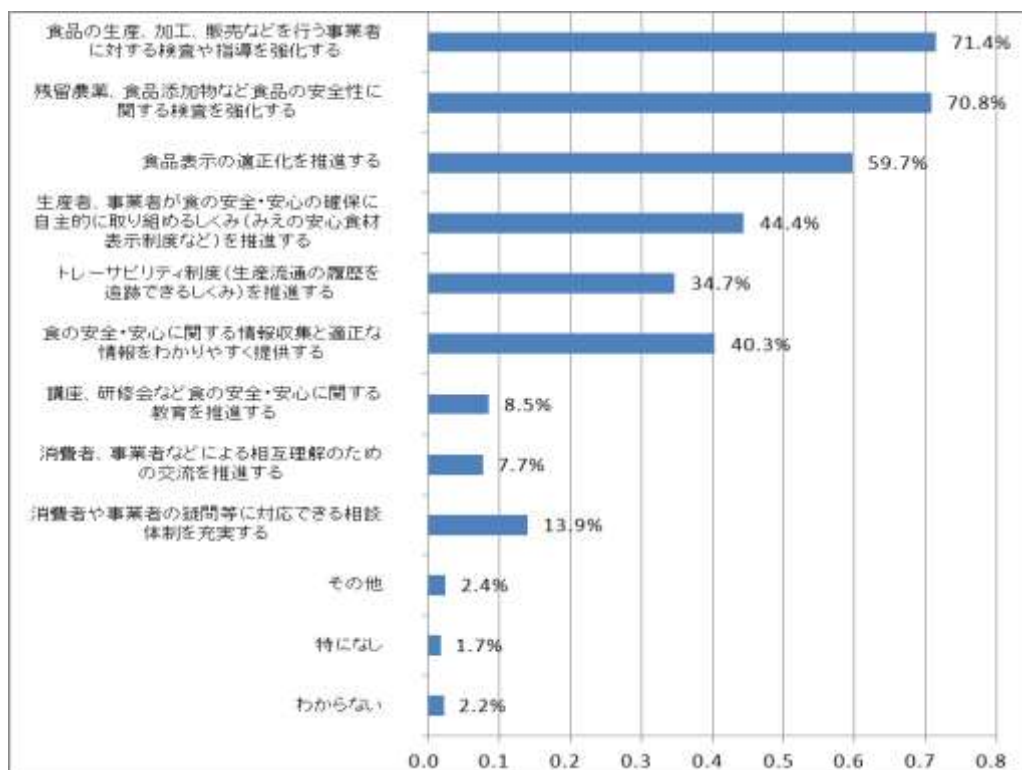


食の安全・安心に関する情報を得る手段について、「テレビ、ラジオ」と回答された方が612人（78.1%）、「インターネット」と回答された方が456人（58.2%）、「新聞」と回答された方が417人（53.2%）でした。「その他」の回答では、「国産品を購入」「食品表示（産地国）」「情報を得ていない」などでした。

### Q13 食の安全・安心のために行政に期待する取組について

あなたが食品の安心を得るために、行政に期待する取組はどれですか。

あてはまるものをすべて選んでください。

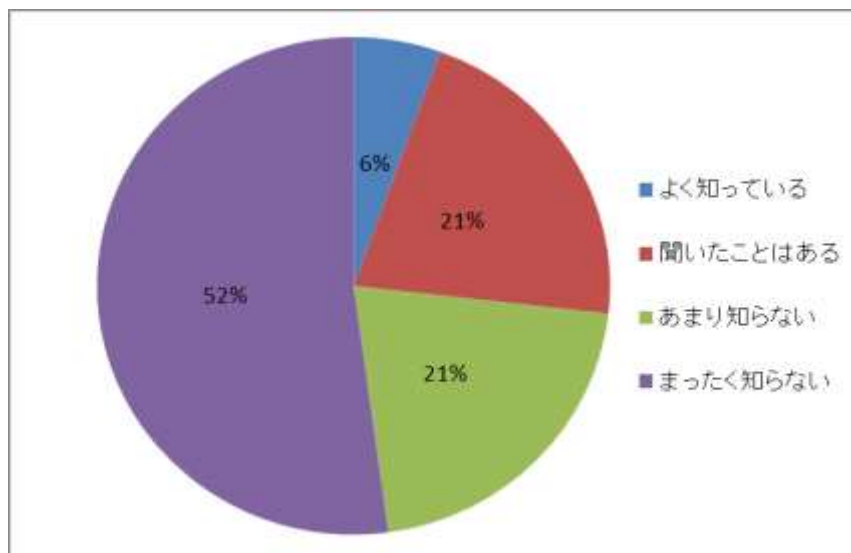


食の安全・安心のために行政に期待する取組について、「食品の生産、加工、販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」と回答された方が560人(71.4%)、「残留農薬、食品添加物など食品の安全性に関する検査を強化する」と回答された方が555人(70.8%)、「食品表示の適正化を推進する」と回答された方が468人(59.7%)でした。「その他」の回答では「外国の商品管理強化」「優良生産者への叙勲、顕彰を推進」「食育の教育」「情報開示が必要」「違反者への罰則強化」などでした。

### Q14 米トレーサビリティ法の認知度について

「米トレーサビリティ法」を知っていますか。

あてはまるものを1つ選んでください。





※米トレーサビリティ法とは

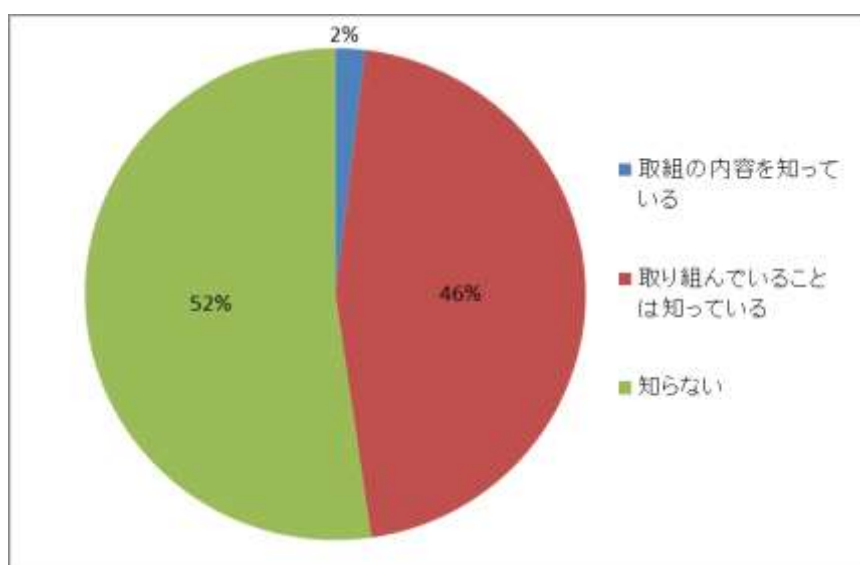
正式名称を「米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律」といい、米穀事業者に、問題が発生した場合などに流通ルートを速やかに特定するため、米穀等の取引等の記録を作成・保存すること、産地情報を取引先や消費者に伝達することを義務付ける法律です。

米トレーサビリティ法の認知度について、「よく知っている」「聞いたことはある」と回答された方が210人（26.8%）でした。

#### Q15 食の安全・安心確保のための行政の取組について

あなたは、食の安全・安心確保のために、現在行政が取り組んでいる具体的な取組をどの程度ご存じですか。あてはまるものを1つ選んでください。

※具体的な取組内容は、Q13の選択肢を参考にしてください。



食の安全・安心確保のための行政の取組について、「取り組んでいる事は知っている」と回答された方が359人（45.8%）でした。